

「新海洋混合学」国際活動支援成果報告書（2017年度分）

2017年12月13日

計画研究班名： A02-4

申請者氏名・所属・職名： 松野 健・九州大学応用力学研究所・特任教授

申請者連絡先 電話・メール：092-583-7731・matsuno@riam.kyushu-u.ac.jp

対象者氏名・所属・職名：松野 健・九州大学応用力学研究所・特任教授

対象者連絡先 電話・メール：092-583-7731・matsuno@riam.kyushu-u.ac.jp

相手先氏名・所属・職名： Leilani Solera・フィリピン大学・大学院生

Peter Jeffrey Maloles・フィリピン大学・大学院生

相手先連絡先 住所・電話・メール：Prof. Cesar Villanoy,

Marine Science Institute

University of the Philippines

Diliman, Quezon City 1101

Philippines

Tel/Fax +63-2-9223957

c.villanoy@gmail.com

申請項目（複数可、数字を記入）： 3, 5

1. 国際共同航海の調整, 2. 拠点形成に関わる派遣・招聘, 3. 国際共同研究関連, 4. 研究者派遣, 5. 海外研究者招聘, 6. 研究技術研修, 7. 研究動向調査, 8. その他（ ）

申請課題名：ルソン海峡における共同観測

成果報告要旨（A4 数枚以上図表・写真等を含む研究成果報告詳細版を別ファイルで添付すること）： フィリピン大学から招聘した上記 2 名は、白鳳丸の研究航海 KH17-5 Leg2 に乗船し、特にルソン海峡周辺海域における観測に従事した。Leg2 の 2 週間超の観測期間の中で、フィリピンの EEZ および領海内で約 1 週間の観測を実施することができた。乱流計測のほか、係留系による流速の時系列観測や、水塊分析用の採水観測も実施でき、それぞれの解析は今後行われるが、それらの解析を通じてルソン海峡における混合過程の一端が明らかになることが期待される。

全体計画・計画研究への寄与：ルソン海峡はその顕著な地形上を黒潮が流れ、また内部潮汐が発達する海域として知られており、そこでの乱流強度を計測することは、「新海洋混合学」

の研究目的のひとつである黒潮域の混合過程を理解する上で大きな意義がある。

制度の改善点・感想等： 国際共同研究を実施するに際して、このような予算は非常に有意義であり、本制度により国際的な交流が活性化される。

実際の日程：11月10日、マニラー東京移動。

11日 航海に関する事前準備

12日 白鳳丸にて、九大から乗船する研究者と航海関係の打ち合わせを行った。

13日 九大からの乗船者等と、観測機材等の整理をするとともに、観測内容に関する打ち合わせを行った。

14日 東京、晴海埠頭を出港

15～18日に伊豆海嶺周辺域での観測を行った後、22日にルソン海峡に到着。

以降28日までルソン海峡周辺海域の観測において、係留系の設置回収、乱流計測、CTD観測、XBT観測等を実施した。

30日 那覇港 入港

12月1～2日 観測結果の整理と解析に関する打ち合わせを行った。

3日 那覇ーマニラ移動

使用した予算内訳（旅費とその他の経費に分けて記述）：